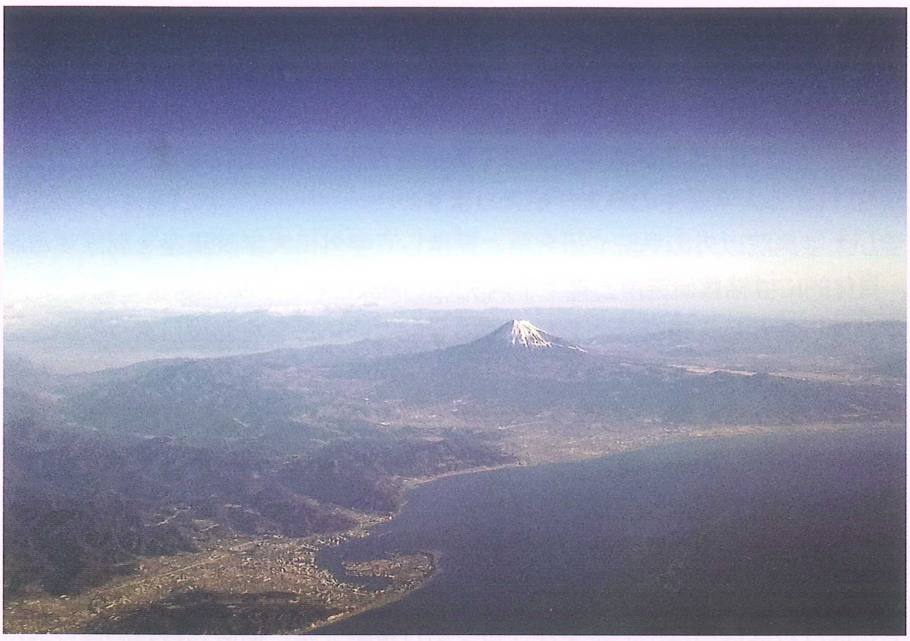
あかれんが

複十字病院だより

〒204-8522 清瀬市松山3-1-24
TEL：042-491-4111　http://www.fukujuji.org

【発行責任者】院　長 工　藤　翔　二



巻頭言『今年は巳年　医学／医療の年』

院長 工　藤　翔　二

明けましておめでとうございます。

今年は巳年。蛇の年です。ところで、蛇が絡みついた杖のマークをみたことがありますか。患者さんを病院に移送する救急隊員の制服には、みんなこのワッペンがついています。ギリシャ神話に登場する名医「アスクレピオスの杖」といわれます。この杖は、世界保健機構（WHO）や聖路加国際病院のシンボルにもなっています。蛇は、医学／医療の象徴なのです。

複十字病院は、「結核・呼吸器」、「がん」、「生活習慣病」の三つを医療の柱として、充実を図ってきました。「結核・呼吸器」の領域では、一昨年の「高度結核専門施設」（厚労省）指定に続いて、昨年、長崎大学の連携大学院（臨床抗酸菌症学）になりました。また、「がん」の領域では、東京医科歯科大学など14病院と並んで、「東京都肺がん診療連携協力病院」、「東京都乳がん診療連携協力病院」、「東京都大腸癌診療連携協力病院」の指定を受けました。そして、「生活習慣病」と地域医療の領域では、“相談支援センター”と“複十字訪問看護ステーション”が発足１年を経て、順調に運営されています。また、東京病院、医師会、薬剤師会の皆さんと一緒に３回の“きよせ吸入療法研究会”を開催して、病院・診療所と調剤薬局の連携を推進しました。

今年は、“健康日本21（第二次）”が始まります。ここでは、がん、循環器疾患、糖尿病に次いで、長年の喫煙習慣によって起こるCOPD（慢性閉塞性肺疾患）が取り上げられました。目標はCOPDを知っている成人国民の割合（認知率）を、現在の25％から10年後には今の“メタボ”と同じ80％にしようというものです。複十字病院は、2009年に発足した“呼吸ケア・リハビリセンター”を中心に、COPDや在宅酸素療法の患者さんの治療とリハビリテーションに力を注いできました。日本のCOPD患者は530万人と推定されていますが、わずか20万人ほどの人しか治療を受けていません。知らないでいる人達にCOPDの怖さを伝え、予防と早期発見・治療を進めたいと思います。

“健康日本21（第二次）”の特徴は、乳幼児から高齢者まで年代に応じた個人目標を定めるだけでなく、それを実現するための地域社会の形成をもう一つの柱としたことです。「医療と福祉の街」、“きよせ”だからこそできる地域社会を造りたいものです。先日、清瀬医師会で“認知症”の講演会が開かれました。講師は、複十字病院の飯塚友道先生（アイソトープ・PETセンター長）と東京病院の栗崎博司先生（神経内科医長）のお二人です。“認知症”や“ロコモ（運動器症候群）”に陥らぬよう、早期発見と早期治療を進めることや、不幸にして要介護に陥った方々を地域社会が守ってゆくことは、これからの超高齢化社会の進行の中でますます重要な課題になっていきます。

今年も、柱となる「結核・呼吸器」、「がん」、「生活習慣病」の医療レベル向上と地域医療の充実に一層の努力をして参ります。

この度結核予防会は
長崎大学の連携大学院講座を開設しました

公益財団法人結核予防会複十字病院　呼吸器センター長　**白石　裕治**

平成24年10月１日付けで長崎大学と公益財団法人結核予防会は、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学系専攻に連携講座「抗酸菌感染症学講座」を開設しました。講座は基礎抗酸菌症学分野と臨床抗酸菌症学分野とに分かれ、基礎分野は結核研究所の御手洗聡先生が教授に、同研究所の大角晃弘先生が准教授に、臨床分野は私が教授に就任しました。10月３日の長崎大学教授会で御手洗先生と共に新任の挨拶をしてきました。実際の講座開講は平成25年４月で、これから大学院生の募集が始まります。

連携大学院とは大学が大学病院以外の病院や研究所と提携して学外に大学院講座を開設する制度です。したがって講座は結核予防会内、具体的には結核研究所と複十字病院内に開設され、私はいままで通り複十字病院で勤務します。結核研究所と長崎大学とは以前から人事交流があり、その過程で連携講座を開設しようという話がでてきました。長崎大学にとってはより多くの大学院生を獲得でき、かつ東京に拠点ができるというメリットがあります。また結核予防会にとっては結核研究所、複十字病院に勤務しながら学位取得を目指せるルートができ人材確保の際のセールスポイントになるというメリットがあります。要するに双方にとってwin-win situationで生まれた講座です。

ただし講座開設までには色々とクリアしなければならない問題がありました。私に関していえば長崎大学の大学院教員資格審査が予想以上に厳しかったことです。連携講座ですので医学博士を取得していてそれなりの業績があれば大丈夫だろうと思っていました。しかし実際に送られてきた資格審査書類は通常の大学医学部教授選の応募書類に準じていました。クリアしなければならない必要条件が多々あり長崎大学と何度も書類の遣り取りをしました。無事教授に就任できてほっとしているところです。

大学院教授ですので医学部教授とは違い医学部生の講義などの義務はありません。逆に自分の講座に大学院生が居なければ講座を開講しても開店休業状態になってしまいます。コンスタントに大学院生を確保し大学院生に学位を取得させなければ実績があがりません。そのためにも大学院生が講座に入学するよう宣伝していく必要があります。また講座を維持していくために定期的に英語論文を発表していく必要もあります。とりもなおさず連携大学院講座は始まったばかりです。本当の勝負はこれからです。一人前の講座に育っていけるよう皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後に連携大学院講座の教授に就任する機会を与えて下さった結核予防会の関係者各位に感謝致します。

新山手病院の新本館が第一期工事竣工

庶務課長　**菊地　健司**

当院の姉妹病院である新山手病院（東村山市）では新館の建替工事（一期工事）が竣工し、9月15日（土）に東村山市長や東村山市議会議長等の来賓のほか約100名が列席して、竣工式及び内覧会が執り行われ、9月24日（月）にリニューアルオープンしました。第一期工事ではエントランスホールをはじめ、外来診察室・待合室や呼吸器系病棟等などが新しくなりました。引き続き第二期工事が開始され、第二期工事では外来診察室の増室やリハビリテーション室の移転・拡充、放射線治療機器導入により放射線治療が開始されることとなっております。すべての工事完了は2014年1月の予定です。

藤沢周平の結核と東村山・清瀬

―新山手病院新本館竣工に寄せて―

複十字病院院長　**工藤　翔二**

一年ぶりに鶴岡を訪れた。鶴岡は妻の故郷であり、幾度となく訪れているが、今回は鶴岡市立「藤沢周平記念館」ができたというので行ってみた。映画になった“蝉しぐれ”や“たそがれ清兵衛”くらいしか知らず、藤沢文学の愛読者とは到底言えないが、教師をしていた妻の父が、藤沢周平（本名は小菅留治）の小学校（青龍寺尋常高等小学校、現在の黄金小学校）時代に、習字を教えたと聞いて親しみを持っていた。作品にしばしば登場する“海坂藩”が庄内

藩の写しであり、鶴岡の幕末の歴史が織り込まれていることは妻からよく聞かされていた。

藤沢周平は山形師範学校を卒業後、昭和24年に湯田川中学校の教師となった。その2年後に集団検診で肺結核を発見され、昭和26年3月鶴岡の中目病院に入院して治療を受けることになった。以下は、「半生の記」（藤沢周平著、文芸春秋社、1997年）からの抜粋で綴ることにする。

『さて、そうは言っても病状がおもわしくないのは厳然とした事実で、パス、ストマイの併用も思ったほどには治療効果が上がっていないことがはっきりした八月末に、私は中目医師と相談した結果、しかるべき専門病院に入院することにした。入院を申しこんだのは北多摩郡東村山町久米川（現・東京都東村山市）にある篠田病院林間荘である。林間荘はいわゆる結核療養所だが、同じ東村山にある結核専門病院保生園と契約していて、手術が必要な人はそちらで手術出来るようになっていた。』

藤沢は入院申し込みから半年もの間、順番を待って昭和28年2月ようやく上京し、篠田病院に入院した。藤沢はここで、手術治療を勧められることになる。

『五月末になって、やっと保生園に転院した。季節は梅雨に入り、丘の中腹を病棟が這いのぼるように建てられていた病院は、来る日も来る日も音立てて降る雨に包まれていたことを思い出す。その雨に病室の外に密集した木木の暗い緑が濡れていたことも。』

『手術は三回、右肺の上葉切除につづいて、手術した側の肋骨を計五本切り取る補足成形術が二回である。うまくいけば最初の一回で済むはずだったので、私の手術はあまりうまくいかなかったことになる。手術も二回までは余裕があったが、三度目の手術を告げられたときには私は疲労の極に達していて、どうなることかと思った。

しかし私はどうにか生きのびた。丘の傾斜に建てられた病棟から、手術や検査で手術室、検査室、事務室などがある麓の中心棟に行くためには、坂を下り、終ったあとにまた坂をのぼらねばならない。私を担送車に乗せた当日の係の看護婦さんと介護の川端さんは、車が坂にかかると声を合わせて一気に傾斜をかけ上がるのだった。私はいまも、手術を担当してくれたO先生もさることながら、こうした女性たちの献身的な看護によって命を助けられたという気持が強い。』

藤沢が保生園で手術を受けたのは26歳、昭和28年6月のことであった。当時の結核罹患率は人口10万対500を超え、結核医療費は国民総医療費の28%（昭和29年）を占めていた頃である。藤沢の結核は発見時には『拡大したところによると、右肺上葉にはっきりした病巣がひとつ、左肺に小さなカゲが一、二ヵ所あるというもので、むしろ右肺のものが主病巣だった。しかしそれは空洞化しておらず、また病気は非開放性だった』というから、現在の結核医療なら6ヶ月間の化学療法で完治する性質のものだろう。ちなみに現在の結核罹患率は10万対18となっており、隔世の感がある。

宮崎駿監督による「となりのトトロ」で『七国山病院』として紹介されたこの結核予防会の保生園は、その後「保生園病院」と名を変え、さらに平成元年には「新山手病院」（現在、公益財団法人結核予防会「新山手病院」）と名前を変えて、いま東村山の地で地域医療に献身している。藤沢が書いた八国山の『丘の傾斜に建てられた病棟』は姿を消し、今年9月には積年の願いであった新館が竣工して新たな医療に向かおうとしている。保生園が担ってきた高度の結核医療は、姉妹病院である清瀬市の公益財団法人結核予防会「複十字病院」に引き継がれている。

10月に保生園を退院した藤沢は篠田病院に戻り、昭和32年11月の退院までそこで3年間を過ごすことになる。退院後、練馬区貫井町に間借り、昭和38年2月には清瀬町上清戸（現、清瀬市上清戸）中家方に間借り移転、翌年に清瀬町の都営中里団地（現、清瀬市中里）に移転している。藤沢が清瀬で過ごしたのは、昭和45年1月に久留米町（現、東久留米市金山町）に移転するまでの7年間である。昭和51年11月に練馬区大泉町に居を構えた。

鶴岡を故郷とする藤沢周平が、結核の既往を抱えながら生き、東久留米・清瀬と、これほど身近なところで生活を営んでいたことは、私にとって新鮮な驚きであった。藤沢周平は平成9年1月26日、国立国際医療センター（現、国立国際医療研究センター）で69歳の生涯を閉じた。藤沢の命を奪った肝炎も、かつての結核手術の際の輸血が原因といわれる。

追記：本文の年代は「半生の記」収載の“年譜”による。なお、文中の“篠田病院”は現在はない。藤沢は『それは西武新宿線久米川駅の東方で、伊豆殿堀（野火止用水）と斜めに交差する道とで出来る大きな三角形の敷地』と紹介しており、現在、跡地にはボーリング場（「久米川ボール」）が建てられている。当時の保生園で行われていた結核外科療法とリハビリテーションの様子は、「肺機能訓練法」（Bruce T.著、島尾忠男訳、結核予防会、1957年）と映画「再起への道」（結核予防会、1959年制作、2009年DVD版で復刻）に見ることができる。

秋桜の会によせて

この秋に秋桜の会は５周年を迎えました。
平成19年複十字病院としては、乳腺科の患者有志が集まり結成し、運営も行っている唯一の患者会です。
年に３回のおしゃべり会では、体験談や勉強会・コンサート・お食事会など行っています。

これまでの勉強会の内容としては

※リンパ浮腫について	講師：複十字病院リンパ浮腫認定看護師
※治療中のメイクについての講習会	講師：エイボン・ソシオエステティシャン
※補正下着の研究発表会	講師：複十字病院乳腺科病棟看護師
※緩和ケアについて	講師：複十字病院緩和ケア認定看護師
※化学療法（抗がん剤）による副作用対策	講師：QOL研究所

ほか

がんの治療には身体的治療と精神的ケアがありますが、悪いところを取り除けば治療が終わるわけではありません。特に乳がんは術後の治療がとても大変です。

そんな治療の合間に精神的支援の一つとして、同じ病気を体験した仲間同士が心を寄り添って語り合い、励ましあい、希望を持って生きていく支えの一つが「秋桜の会」です。
これからも、皆さんが安心して治療に専念できる環境を提案できる患者会として続けて参ります。一人でも多くの参加をお待ちしております。

複十字病院院長先生はじめ、乳腺科の先生方、看護師さん、庶務課の皆さん他秋桜の会のためにご尽力いただき本当にありがとうございます。

「秋桜の会」スタッフ一同

- 次回の「秋桜の会」は
  平成25年1月26日（土） 14:00～16:00
  複十字病院本館2F 講堂
- 複十字病院乳腺科患者会「秋桜の会」待望の体験談集『希望の明日へ』が発刊されました。外来64番受付にありますので、ご自由にお持ちください。

清瀬医師会「認知症」学術講演会

アイソトープPETセンター長　**飯塚　友道**

去る10月18日に、当院の工藤院長が学術担当理事を務めておられる清瀬医師会の学術講演会が「けやきホール」で開催されました。今回のテーマは「認知症」です。実は今年、清瀬市は東京都で高齢化率第一位になり、高齢化率と密接な関係のある認知症への対策が喫緊の課題となりました。

まず、国立病院機構東京病院の栗崎博司先生が「認知症の早期診断はなぜ必要か？」というタイトルで講演されました。認知症の中でも特にアルツハイマー病とレビー小体型認知症について初期症状から治療法まで分かりやすくお話しいただきました。認知症の根治的治療薬はまだ開発途中ですが、現在の治療薬でも早期に診断されれば、症状を（一時的にですが）改善させたり、進行を遅らせたり、さまざまな効果が期待できるのです。

その次に、「認知症薬物療法と脳SPECT・PET」というタイトルで私がお話しさせていただきました。当院では、脳血流SPECTやFDG-PETといった核医学検査に力を入れていますが、脳の血流や糖代謝を測定すると、早期診断と治療効果判定が可能になります。また、幻覚などの周辺症状と脳血流の関連についても、具体例とともに提示いたしました。

当日は60人ほどの方（医師・薬剤師など医療関係者）が参加され、ご質問の内容などからも、認知症と向き合っておられる方々の関心の高さがうかがえました。

さて、当院の「もの忘れ外来」の枠も2013年４月から拡大する予定です。講演会の後、「予約が入りにくい」との苦情（？）も直接いただきましたが、これで多少なりとも解消できるものと考えております。

清瀬市民マラソン

歯科　**石黒　和夫**

例年通り体育の日に清瀬市民マラソンが開催され、複十字病院からも職員が何人か出走し、私も走りました。私自身は８回目の参加で天候にも恵まれいい汗をかいたのですが、このところ年のせいか年々タイムが悪くなり、健康のために走っているのだからタイムなんか気にするなと思いつつ、一抹のさみしさを感じております。

なお清瀬市民マラソン大会に対しては、複十字病院からは毎年救護のための人員を出しており、今回は勝山一貴世医師と中村千尋看護師が活躍されました。

この人…紹介

「一年の計は元旦にあり」そして正月元旦には欠かせないもの、それは「門松」である。当院においても12月下旬に正面玄関の脇に設置されます。その立派な門松を毎年作ってくださっているのが営繕に勤務されている「テラさん」こと「寺門清守」さんです。三武サービスからの派遣職員さんで、平成10年の８月から複十字病院にてその手腕を発揮していただいております。彼はどんなに忙しくても「今忙しいから」と言う言葉は決して言いません。非常に温厚な人柄で産地は茨城県常陸大宮市、腕の良い大工さんである事は勿論のこと、当院においては家具まで作成して下さっています。そのテラさんが作成している門松は通称「関西型」と呼ばれているもので、竹の先を斜めにカットしてあります。斜めカットは三方ヶ原で痛い敗戦を喫した時、徳川家康が考案したと伝えられております。さてそのテラさんが精魂込めて作成した今年の門松は如何でしたでしょうか？

素敵なボランティアさんをご紹介します!!

複十字病院では、ボランティアに活動をしていただいています。
ボランティアの方々は、「患者さんがより快適な診療が受けられるように」という思いを持って活動して頂いています。その活動により、患者さんにぬくもりや潤いを与えて頂き、医療サービスの向上に貢献して頂いています。

近藤　久子さん

昔、東京電力の保健課に勤めていた関係で複十字病院とのつきあいが始まったそうです。
7～8年前からお世話になったお礼にと病院のまわりを清掃して下さっています。
おんとし**91歳**……頭が下がります

出　身　地…山梨県　上野原市
家　　族…一人暮らしですが、二人の甥がいて、時々面倒をみてくれます
趣　　味…特にありません
健康の秘訣…毎日、規則正しい生活をして物事にはこだわらないこと
清掃活動も自分の体が調子の良い時だけと決めています。

傾聴ボランティアの講座を受けたこと、また知らない人と接し話を聞くことが好きなので応募をしたそうです。

間野　浩二さん

出　身　地…東京都
趣　　味…社交ダンス
ボランティア活動の感想…
自分が出来る範囲のお手伝いをさせていただいていますが患者様から感謝の言葉をいただき恐縮しています。
どんな活動をしていますか…
患者様から頼まれた品物を売店で購入したり、患者様の話相手になり、天気の良い日は散歩に付き添います。
病院に望むことはありますか？…
特にありませんが、全ての働く人達が職種にとらわれることなく、働く人として有機的に動いていることが素晴らしいと感じました。
そして、皆さんの明るい振る舞い、芸人気質の朗らかさに圧倒される活動日です。

ボランティアさんを募集しております!!

通院や入院中の患者様のために、皆様の暖かいボランティア活動をお願いするもので、人と人のつながり、ふれあいの心があればどなたでも参加できます。

活動内容
- お食事の介助
- 患者様のお話相手
- お散歩の付き添い
- 院外の美化運動
- その他

活動日と時間
(月)～(金)
10:00～16:00までの間、2時間程度です。

お問い合わせ
医療連携室　鈴木
電話：042-491-9128

平成24年度自衛消防訓練審査会

事務部庶務課（男子隊指揮者）　**瀧口　竜太**

去る記憶にも遠い、9月21日に複十字病院としては連続出場が恒例となっている消防署主催の自衛消防審査会に女子隊・混成隊・男子隊の3隊が見事連続出場致しました！
例年同様、各隊全員が17時以降の勤務時間外の練習に参加出来るよう調整を行い本年度は、小林総隊長の号令で「打倒清○市役所！」を練習初日からスローガンに掲げ、優勝したらご褒美で【焼肉・ホッピー食べ飲み放題！】に燃えまくり（踊らされ？）猛暑の中、練習に励みました。練習最終日には隊員の各上司が応援に駆けつけていただき、より一層気合が入り結果は男子隊準優勝で女子隊・混成隊は共に敢闘賞でした。（ご褒美なし↓）
各職場責任者の方には参加・日程等でご協力いただきまして誠にありがとうございました。
各隊員はその後の（残念）打ち上げで審査会を通して分かち合った「絆」を大切に、今後も業務に生かすと、誓い合いました。各隊のコメントです。

女子隊指揮者　3S病棟　**富田　芙美代**
最初は何の事だかも分からず引き受け、慣れる事なくバタバタと本番を迎えてしまいました。長セリフも覚えられるか心配でした……でも皆と仲良くなれて楽しかったです！

女子隊1番員　3A病棟　**牧田　雅美**
とても大変でしたが、良い経験出来ました。優勝は出来ませんでしたが、今後に生かせると思います。

混成隊指揮者　リハビリテーション科　**多門　大介**
色々と大変でしたが、職場・先輩方の理解（むしろ後押し）もあり、頑張ることができました！打ち上げも含め貴重な経験となりました。ありがとうございました。

混成隊1番員　放射線科　**相方　美咲**
色々な経験が出来て楽しかったです！

男子隊1番員　経理課　**荒井　友範**
楽しむ勇気!!

複十字病院理念

私たち複十字病院の職員一同はこの理念を常に念頭において研鑽し、努力いたします。

1. 私たちは患者さま中心の医療を行います。
2. 私たちは皆様の健康を第一に考え、人格を尊重し、プライバシーを守ります。
3. 私たちは開かれた、信頼感のある医療と温かい看護を提供します。
4. 私たちは最新で最良の医療を提供します。
5. 私たちは地域の医療、保健、福祉に積極的に参加します。

●複十字病院の基本方針●

1. 一般急性期病棟と療養型病棟の複合型病院として、高齢化する地域社会に貢献するとともに関東ブロックの結核拠点病院として結核予防会の使命を果たす。
2. 複十字病院登録医会を中心として、病診、病病連携を推進し地域医療に貢献する。
3. 職員教育を充実させ、患者さまへのサービスと医療の質的向上を図る。
4. 在宅医療、救急医療の充実を図るとともに、検診事業の内容を発展させ新しいがん検診システムを構築する。
5. 院内、院外の情報システムを充実し、地域社会に積極的に参加する。
6. 職員の原価意識を高め、健全な病院経営を行う。
7. 患者さまは年齢、性別、地位に関係なく充分な説明に基づいた治療を受け、第三者の意見を聞き、診療情報の開示を求める権利を有する。
8. 危機管理を充実し、医療事故防止に努める。

人事異動

2012年9月15日～2012年12月14日まで

【採　用】

（看護師）	馬場美雪	10/1
（理学療法士）	星野なつき	10/15
（看護師）	並木　恵	12/1

【退　職】

（看護助手）	澤田留美子	10/14
（看護師）	永田　希	11/30

行事予定

1. 年末年始休診
   日　時▶2012年12月30日（日）～2013年1月3日（木）
   ＊12月29日（土）は通常の土曜日診療となります
2. 院長年頭挨拶
   日　時▶2013年1月4日（金）12：00
   場　所▶複十字病院　講堂
3. 職員健康診断
   日　時▶2013年1月16日（水）～18日（金）
   場　所▶結核研究所　講堂

院内コンサート開催

2012年11月7日（水）午後7時より当院新外来待合におきまして、男性カルテット「ほろよいず」による秋のコンサートが開催されました。当日は秋の童謡唱歌や日本民謡等が合唱され、秋の宵を楽しみました。

この広報誌は私たちが編集をしています!!

毎月、第2火曜日に院長室で委員会を開き、すこしでも読みやすく、楽しい題材を心掛けて企画しております。
編集委員のモチベーションアップのため、ぜひご意見・ご感想をお寄せ下さい。

編集後記

あけまして　おめでとうございます
毎年、今年こそはと思いつつ目標を達成出来ずにいた、家計簿とダイエット最高6カ月の記録を塗り替えるべく努力したいと思います。今年は皆様にとって良い年でありますように。（K）

表紙の写真

高度1万メートルから望む富士山。思わずスマートホンのシャッターを押した。眼下には駿河湾。久能山から幼いころ住んだ三保の松原、対岸の由井、蒲原、そして富士川から沼津に至る海岸線が美しい。